

## 企業を牽引する計算科学高度技術者の養成

実施機関：神戸大学（総括責任者：福田 秀樹）

実施期間：平成 22～26 年度

### プロジェクトの概要

問題解決のための計算機シミュレーションの本質や有用性を理解し、様々な研究分野で計算機シミュレーションを活用できる人材の裾野を拡大し、兵庫県地域はもとより日本全国の企業で計算科学を先導できる人材を育成・輩出することが、本プロジェクトの社会人教育の主たる目的である。企業からの受講者はそれぞれ異なるスキルを持ち、教育開始時の知識レベルも異なれば、それぞれの受講者の達成目標も異なる。そこで、受講者個人に最適なテーラーメイドの教育カリキュラムを提供する。いつでもインターネット経由で質問が可能なプログラム相談室の設置など手厚い指導体制で人材育成を目指し、企業の研究開発に新しい風を吹き込むものである。

### (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

### (2) 評価コメント

基礎コースとテーラーメイド応用コースの両コースにおいて修了者を所期の計画を超えて輩出し、国際競争力を高めるために必要な技術者を養成していると評価できる。また、修了者の地域定着率が高いことから地域の再生につながる貢献も期待できる。今後、人材養成にとどまらず、養成修了者と指導教員との共同研究により、地域産業の高度化に資する事例が数多く創出されることを期待する。

・**進捗状況**：応用コースがテーラーメイドの教育にもかかわらず、基礎コースとともに修了者数が所期の目標人数を超えていることは評価できる。今後、自治体や大企業だけではなく、中小企業従事者及び小規模教育機関からの受講生の受け入れに対する対応を期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：テーラーメイドの教育だけではなく、受講者の共通したニーズに対する教育である基礎コースが採択時コメントに基づいて導入し、着実に実行していることは評価できる。また、当該分野では実務経験が重要な要素であることから、退職した研究者を指導教員として効果的に活用する仕組みを確立したことも評価できる。今後、中小企業従事者など向け教育やサイバーセキュリティ関連科目の充実を期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：自治体との連携は、兵庫県、神戸市、神戸商工会議所の出資により設立された（財）計算科学振興財団を通じた広報活動など、密接に実施されていることは評価できる。今後、自治体や大企業だけではなく、地元中小企業への積極的な展開を期待する。

・**人材養成ユニットの有効性**：テーラーメイド教育が修了後に指導教員との共同研究に発展していることは評価できる。今後、神戸にとどまらず全国展開を視野に入れると同時に、中小企業からの参加者の拡大も図りながら、プロジェクトを実施していくことを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：神戸大学内に設置された計算科学センターを拠点に本プロジェクトの継続を計画していることは評価できる。今後、スパコン「京」を含めた優れた施設・設備が整い、対象となる企業が集積しているという地の利を活かして、神戸だけではなく日本の製造業の国際競争力強化に貢献することを期待する。